

平成28年度リニモ沿線地域づくり会議の概要

1 開催日時等

日 時：平成28年9月16日（金） 午前10時～正午

場 所：愛知県立大学 長久手キャンパス 多目的ホール

出席者：委員13名、オブザーバー3名、事務局18名

2 会議の概要

(1) あいさつ

(2) 委員長選任

瀬口委員を委員長に選任

(3) 議事

ア 議題1 リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況について

- ・資料1～7について、事務局から説明

【委員・事務局発言要旨】

○井沢委員

- ・イオンモール長久手がオープンすると多くの従業員がリニモを利用すると聞いている。現在でも、時間帯によってはリニモの乗車率が高いが、イオンの開業に合わせてダイヤの見直しはあるか。
- ・リニモテラス公益施設の大学連携について、学生が集まると地域は活性化するという意見も多いため、大学連携をどういう形で進めるか決まっている点があれば教えて欲しい。

○愛知高速交通(株)

- ・朝の通勤・通学時間帯は、リニモが混雑している。今後、大型商業施設の開業により、リニモがより混雑することが想定されるため、臨時列車の運行、ダイヤ改正等の必要性について社内で検討中である。

○長久手市

- ・大学連携は、長久手市内に4つの大学があり、まちづくりについて学生と議論しながら、地域と連携する場の提供をしていきたい。内容の詳細は、現在議論しているところである。

○亀倉委員

- ・リニモテラス公益施設の大学連携は、市内の4大学に限らず、広く大学の学生が活動できる場となるよう検討して欲しい。市内の大学でなくてもリニモ沿線を利用する学生が沢山いること、また、長久手市に住んで、他の地域に通学している学生もいるため、広く学生が活動しやすく、共に地域の発展を目指せるような施設にして欲しい。

○山田委員

- ・リニモ利用者が増えているが、この要因をどう考えるか。
- ・先ほどの報告では、イベントを絡めた一次利用を増やす取組が多いと感じた。リニモ沿線

の住民や学生を増やしていくのか、リニモの一次利用を増やしていくのか、地域づくり会議の狙いを聞きたい。

○愛知県

- ・リニモ利用者増の要因は、まずは通学定期の伸びが挙げられる。また、通勤定期も堅実に伸びており、これは長久手市の人口の伸びによるものと考えられる。
- ・リニモ利用者数の傾向として学生の長期休暇期間に利用者数が落ち込むため、この時期にイベントを行い、一次利用を増やす取組を行っている。
- ・この会議で推進するリニモ沿線地域づくり構想は、ハード面のまちづくりに関する取組が中心であったが、構想策定後7年が経ち、ハード面の整備について目途がついてきたため、平成28年3月に策定したリニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020では、交流人口増加に資する取組に軸足をおいている。定住人口はもとより、交流人口の新たな発掘を行い、定期外利用の増につなげていきたい。

○村田委員

- ・既存市街地と隣接していない公園西駅周辺土地区画整理について、通学等公共施設の利用をどのように考えているか。
- ・持続可能なまちづくりのためにも、世代交代ができる区画整理のあり方を考えていくべきである。例えば農村地域は世代交代していくようなシステムがあるが、20年30年先を見通し、コミュニティが安定し、地域に対する愛着が積み重なる持続可能なまちにするには、世代交代を考え、その上で、リニモが活性化する方向性を考えてく必要があるため、この辺も含めて検討していただきたい。

○瀬口委員長

- ・長久手市の場合は、リニモの利用者を増やすために急激に開発を実施したのではなく、長久手市のまちづくりがよいまちになることを維持しながら少しずつ進んできたという経過がある。今のご指摘は、そうであっても、世代の入れ替わりが進むように開発する必要があるという意見で、リニモ利用促進のためのソフト施策や既存施設の改良も踏まえ、長久手市もしっかり考えていると思う。

○長久手市

- ・公園西駅の区画整理事業における通学は、道路に歩道を付けるなど安全なまちづくりを進めている。
- ・持続可能なまちづくりは、公園西駅の区画整理事業については、一宅地の敷地面積を200平米と地区計画を定め、大きな敷地をとる区画整理を進めている。また、30年先のまちづくりに向け、小学校単位でコミュニティ活動ができるような取組を検討しており、モデル地区でまちづくり協議会を作り、地域コミュニティを発信する場の形成を目指している。

○松宮委員

- ・日進市のくるりんばす等の報告があったが、リニモの路線とバスの接続が一緒になったの

りかえマップがあると、非常に便利である。また、藤が丘駅や長久手古戦場駅などで、このマップが配布されていると、さらに利便性が上がり、観光客にとってもリニモ沿線から様々なところに行けることが分かり、リニモ沿線からさらに瀬戸、豊田等に広がっていくような形になる。リニモを始め公共交通機関の利便性を上げるものを作っていただきたい。

○愛知県公立大学法人清水総務部長（野山委員代理）

- ・大型商業施設がリニモ沿線に立て続けにオープンするが、オープン時は多くのメディアに取り上げられ、注目されるため、この機会にリニモ沿線の色々な広報ができると思い。県立大学、県立芸術大学としてもタイミングに合わせた情報発信を行っていききたい。

○島田委員

- ・大型商業施設のオープンは、色々期待もあるが、多くの人が車で来ることが懸念される。昨年の都市緑化フェアにおいて、試験的に愛・地球博記念公園の駐車場料金に平日と土日祝日で差をつけており、その結果は県議会で報告されているが、もし詳細な資料でいただけるものがあればいただきたい。
- ・リニモ沿線地域は、学生が活動するすごい地域であるため、学生の活動をどう支援するかを考えてほしい。例えば、年間定期を提案してきたが、料金制度の変更はすぐにできないようであれば、学生が定期券のない夏休み期間に活動できるようにするため、活動に参加する学生に乗車券を無料で支給してはどうか。

○矢嶋委員

- ・長久手市の区画整理内の保留地の分譲計画を教えて欲しい。

○長久手市

- ・長久手中央土地区画整理事業では、現在使用収益が開始できているグリーンロードより北側で瀬戸大府線より西側のエリアは、工事がほぼ終了しており、保留地について宅地部分をこれから売却していく。グリーンロードより南側は、まとまった保留地が来年度以降、順番に販売が出てくると聞いている。
- ・公園西駅周辺土地区画整理事業では、グリーンロードより北側は一部イケアに売却が済んでおり、全体で23,600平米あり、残りの部分は来年から再来年以降となる。駅から順番に整備しており、各街区に保留地はあるため、進捗に応じて順番に分譲となる。

○瀬口委員長

- ・陶磁資料館南駅の駅名を陶磁美術館にそろそろ変えて欲しい。

○愛知高速交通(株)

- ・同様の意見を多方からいただいているが、費用面の課題から、現時点では変更することは難しい。

イ 議題2 2つの大型商業施設のオープンを見据えたりニモ沿線地域づくりについて

- ・資料8について、事務局から説明
- ・愛知高速交通(株)から交通系 IC カード等を活用したりニモ利用促進策について説明
- ・亀倉委員から名古屋商科大学の学生が企画するイオンのオープニングの取組について説明

【委員・事務局発言要旨】

○清水委員

- ・本日、会場に来る際にイオンモール長久手の工事状況を見たが、多店舗と違い緑を基調とした外観で、壁面緑化もされており、こういった施設は、まちの印象、都市の景観を決定付けると感じた。店舗のカラーコントロールはしているか。
- ・リニモテラス公益施設の整備基本設計業務委託に係る公募型プロポーザルを実施しているとのことだが、設計に当たり、施設を使う側の地域住民や学生の意見を取り入れるプロセスはあるか。

○長久手市

- ・長久手古戦場駅には、古戦場史跡があり、イオンにも協力をいただいている部分がある。駅前のトータルデザインを目指し、店舗を周辺環境に配慮したデザインにしてもらっている。
- ・リニモテラス公益施設整備基本計画業務の公募の期間は、8月22日から始まっているが、設計業務において、より多くの市民の意見を聞くことを評価の要件に入れている。

○安藤委員

- ・交通渋滞の問題が取り上げられているが、お客様から、住みにくさに対する不安を確かに聞いている。単に新しい施設ができるということだけでなく、懸念事項に対応・検討をしていることをきちんと情報発信できると、新たに住む人の不安を取り除けてよいと思う。
- ・商業施設のオープンにあわせて、リニモ沿線に広域から新たに人がくるため、この機会にリニモ沿線は県と沿線市で魅力向上の取組、住みやすさの提供をしていることを伝えていただければと思う。

○土井委員

- ・マイナスの面を、じっくりと対策していかないといけないと感じる。
- ・地域は活性化するが、地元の中小規模事業者には影響がでるため、十分考えていかないといけない。
- ・商業施設のオープンを契機とした賑わいが落ち着いた時に、どう活性化を図るかを今から考える必要がある。2019年のラグビーワールドカップでは、国内外から多くの長期滞在の観光客が豊田や名古屋に来るため、この人たちをいかにこのリニモ沿線地域に取り込むかを合わせて考えてほしい。

○島田委員

- ・商業施設の位置づけとしては、リニモテラスをいかに活性化する地域づくりをするか、環

境配慮型のまちづくりをいかに形成するか、その中でどう商業施設と連携するか、という位置づけにして欲しい。

- ・とはいえ、イオン、イケアが地域のステークホルダーになると思われるため、地域と商業施設とが協議する場を作って欲しい。

○愛知県

- ・協議する具体的な組織は作っていないが、イオン、イケアとは積極的に話し合っており、今後も頻繁に話し合いの場を設けていきたい。

○島田委員

- ・できれば地域の人も参加できる場があると良い。

(4) 閉会